

六十六
(もり)
卒展

令和5年度
愛知県立芸術大学
卒業・修了作品集

Aichi University of the Arts.
Graduation Works Exhibition

令和5年度 愛知県立芸術大学卒業・修了制作展に寄せて

このたび、令和5年度卒業・修了制作展開催を記念し、作品集を刊行いたしました。本学卒業・修了制作展は平成29年度より学内展示を開始、翌平成30年度より「木木木（もり）の卒展」と題し、本格始動しました。今年度はコロナ禍で閉ざされていた扉が大きく開き、海外交流や研修ほか、ようやく本学も従来の日常と活気を取り戻しました。しかし一方で、新年早々能登半島地震や凄惨な航空機事故を目の当たりにし、さらにウクライナ、ガザ地区の長引く戦況など、我々の気持ちは沈むばかりです。

人々の心を豊かさへと誘う芸術と芸術家を育む本学の役割と責任を重く感じています。

本展では、美術学部各専攻・美術研究科各領域の学生による躍動感と創造力あふれる作品群が、自然豊かなキャンパスのあちこちに展示されています。それぞれの作品が伝えるメッセージや表現する喜びに触れながら、アーティストとして歩みはじめた学生たちと対話して頂く機会となれば幸いです。博士後期課程を修了し、本審査を経た博士学位論文・作品展は名古屋市栄の本学サテライトギャラリー SA・KURAで同時開催されています。

令和6年2月 愛知県立芸術大学美術学部長 長井千春

Japanese Style Painting "Nihonga"

日本画

Bachelor

学士 [美術学部]

Name

今井 大地

大澤 駿斗

小野 太陽

風間 桜

加藤 千明

神谷 明音

小林 明日香

白井 いづみ

相馬 未来

鳥居 由花子

堀内 七海



今井 大地

IMAI Taichi

畢生

墨、岩絵具、水干絵具、雲肌麻紙

H2273 × W1818 mm



大澤 駿斗

OSAWA Hayato

夏の果

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H2200 × W1750 mm



小野 太陽

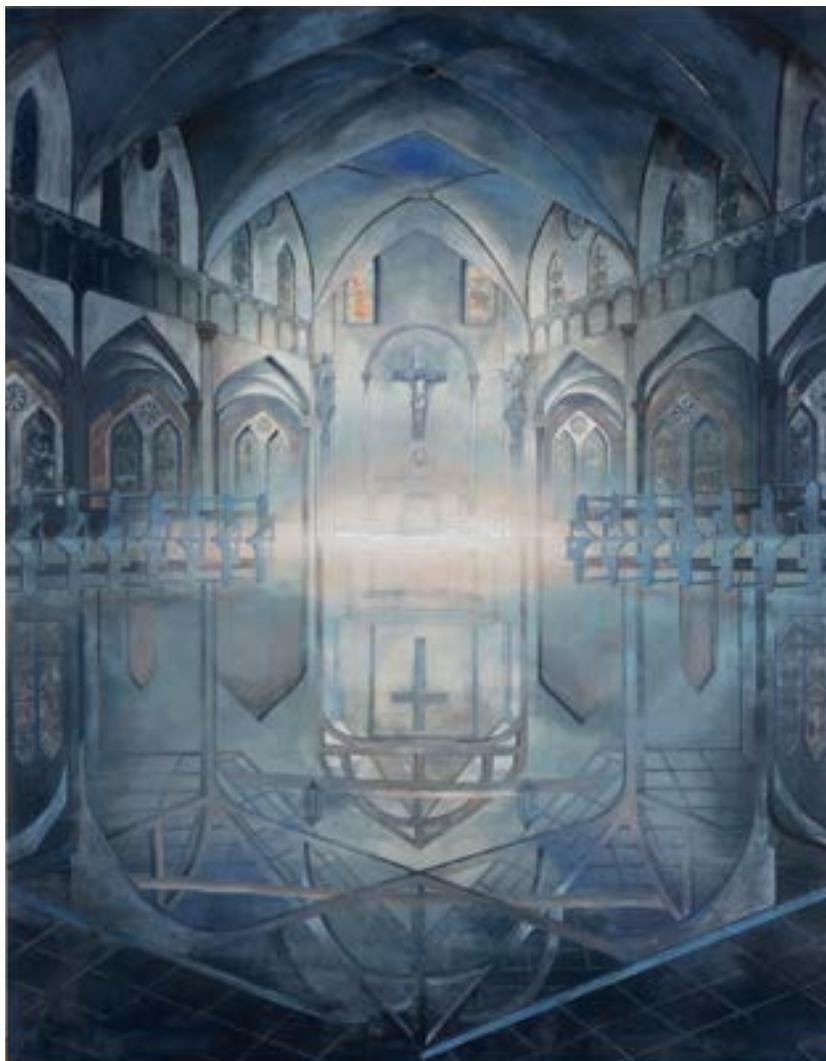
ONO Taiyou

仮想皮

火傷治療に用いられる培養表皮から着想。

和紙、雑誌、単管

H2000 × W1500 mm × 2 枚



風間 桜

KAZAMA Sakura

私的新共同訳

教会に通う幼い父母を、教会で説教をする祖父を思いました。混ざり合う信仰は私へ繋がっていると感じます。

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H2200 × W1750 mm



加藤 千明

KATO Chiaki

この世界で息をする

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H1820 × W2275 mm



神谷 明音

KAMIYA Akane

てんやわんや

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H1818 × W2273 mm



小林 明日香
KOBAYASHI Asuka

光

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H1620 × W2567 mm



白井 いづみ

SHIRAI Izumi

船出の朝

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H2275 × W1820 mm



相馬 未来

SOMA Miku

深閑

岩絵具、水干絵具、高知麻紙

H1818 × W2273 mm



鳥居 由花子

TORI Yukako

HARUKAZE

岩絵具、水干絵具、アクリル絵の具、高知麻紙

H1818 × W3183 mm



堀内 七海
HORIUCHI Nanami

水鏡

岩絵具、水干絵具、高知麻紙、箔

H2200 × W1750 mm

Japanese Style Painting "Nihonga"

日本画

Master

修士 [美術研究科]

Name

安藤 緋那

大石 晃人

大岩 弓未永

岡村 苑子

奥川 夏妃

佐野 史佳

深見 早苗



模写（原本：文化庁所蔵）

安藤 緋那

ANDO Hina

しきぶてゐただ だつたんじんしゆりようずびようぶ
式部輝忠筆「韃靼人狩獵図屏風」(右隻第二扇部分)(文化庁蔵)の
現状模写及び装潢

竹紙、墨、顔料、和額装

H1112mm × W694mm



大石 晃人

OISHI Akito

往復、或いは循環

麻紙、岩絵具、墨、染料、金属泥

H1620 × W2273 mm



大岩 弓未永

OIWA Yumie

Midnight sign

岩絵具、水干絵具、高知麻紙、箔、墨

H1620 × W2910 mm

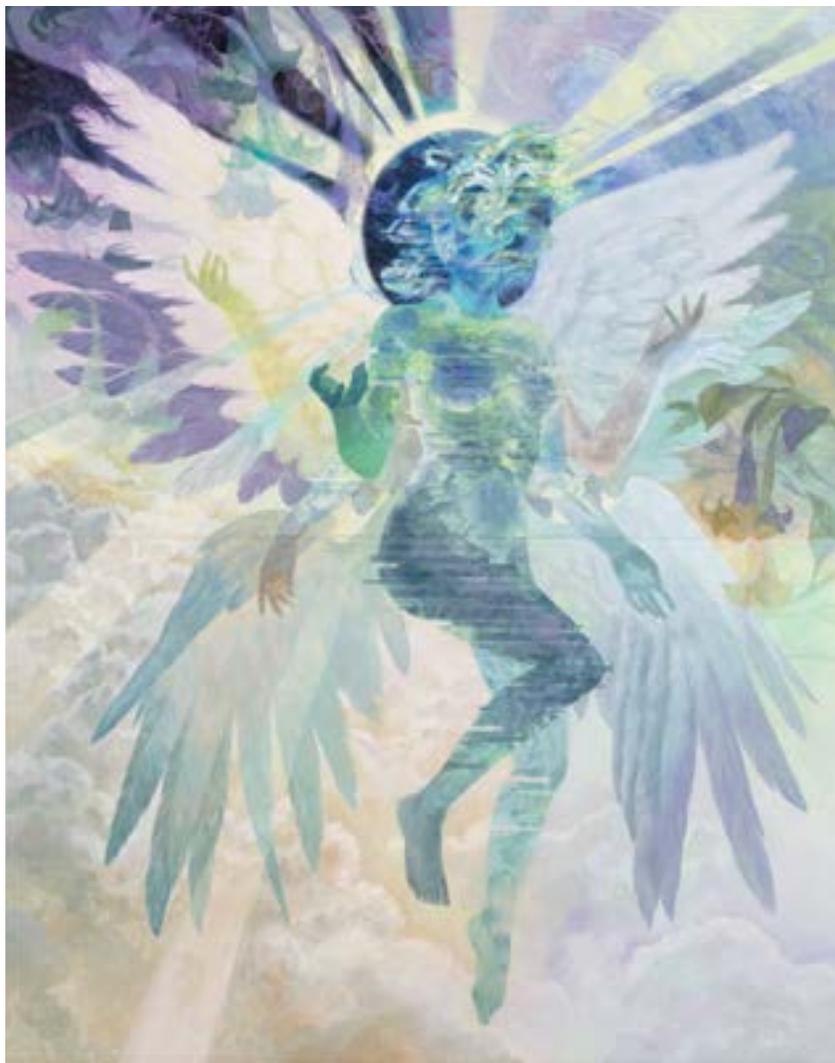


岡村 苑子
OKAMURA Sonoko

Take it easy

岩絵具、水干絵具、高知麻紙、箔

H1750 × W2200 mm



奥川夏妃
OKUKAWA Natsuki

Seraphim

岩絵具、水干絵具、高知麻紙、薄美濃紙

H2200 × W1750 mm



佐野 史佳
SANO Fumika

重要文化財「^{かすがしかまんだらず}春日鹿曼荼羅図」(奈良国立博物館所蔵)の
現状模写及び装潢

掛軸装、絹本着色

H2133 × W678 mm (H764 × W402 mm)



深見 早苗
FUKAMI Sanae

国宝「源氏物語絵巻」柏木（一）（徳川美術館蔵）の
現状模写及び装潢

紙本彩色、卷子装

H218 × W1965 mm (H218 × W484 mm)

Oil Painting

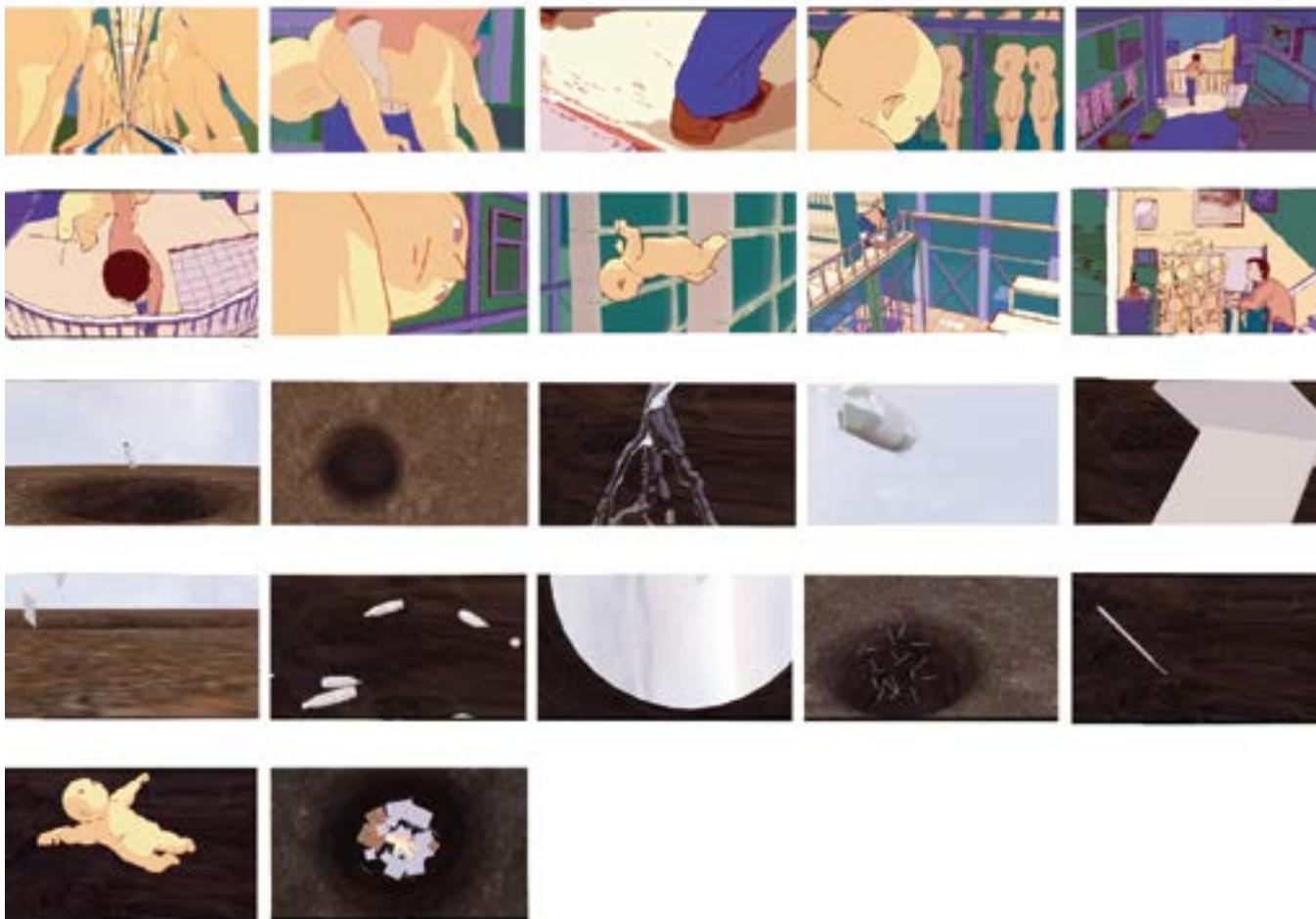
油画

Bachelor

学士 [美術学部]

Name

伊藤 晴花	常盤 果那
伊藤 晴之輔	長沼 あかり
太田 朋伽	成田 圭
大原 夏芽	長谷川 崇平
小椋 雄斗	畠山 真輔
上手 菜々美	東本 伊代
久保石 華鈴	保谷 慶子
黒田 美南	松田 夏帆
小久江 彩奈	水谷 遥
小塚 智樹	森 桜子
柴田 千晶	森島 彩乃
谷口 結菜	安田 曜
中条 友也	山口 大空
塚本 万理華	山口 はるか



伊藤 晴花
ITO Haruka

篩い

映像
45 秒



伊藤 晴之輔

ITOU Harunosuke

新星

鉄、樹脂、アクリル絵具、モニター

サイズ可変



太田 朋伽

OTA Tomoka

どうにもならない現実との距離

キャンバス、油絵具、トレーシングペーパー

H1620 × W2590 mm

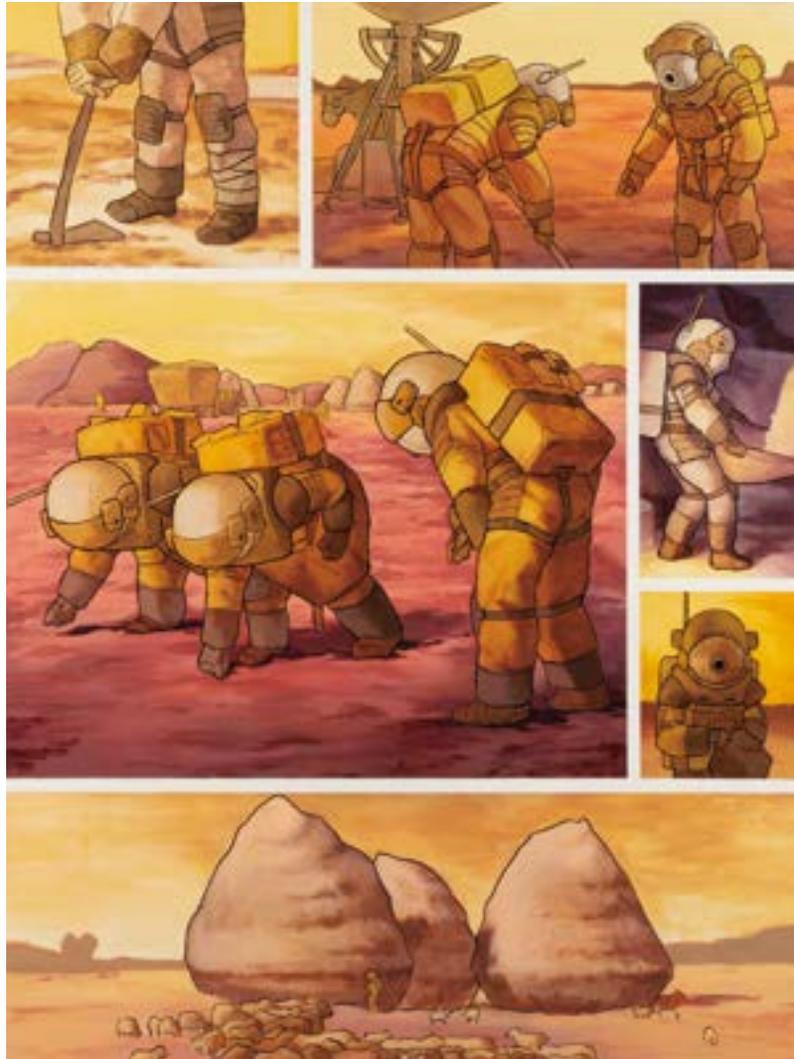


大原 夏芽
OOHARA Natsume

切り替え

キャンバス、油絵具など

H1620 × W2606 mm



小椋 雄斗
OGURA Yuto

Reclamation : X

キャンバス、油絵具
H2530 × W1920 mm



上手 菜々美
KAMITE Nanami

ヒペリカム

キャンバス、油画具、膠

H1940 × W2590 mm



久保石 華鈴
KUBOISHI Karin

warmth

Dreaming of giving up everything

映像、プロジェクター
H2570 × W1620 mm



黒田 美南
KURODA Minami

Happy Birthday to you.

ミクストメディア

H2000 × W2050 mm



小久江 彩奈

KOKUE Ayana

うつろい

キャンバス、アクリル絵具など

H1303 × W2606 mm



小塚 智樹
KOZUKA Tomoki

身体と部屋 / 茶室

杉、シルバーシート、その他
サイズ可変



柴田 千晶
SHIBATA Chiaki

五キログラム

キャンバス、油絵具
H1940 × W2590 mm



谷口 結菜
TANIGUCHI Yuina

ホライゾン

キャンパス、アクリル絵具など

H2000 × W2700 mm



中条 友也
CHUUJOU Yuuya

記憶の在処

木材、油絵具、廃棄物、パラフィンワックス、アクリル絵具
H2000 × W2700 × D450 mm

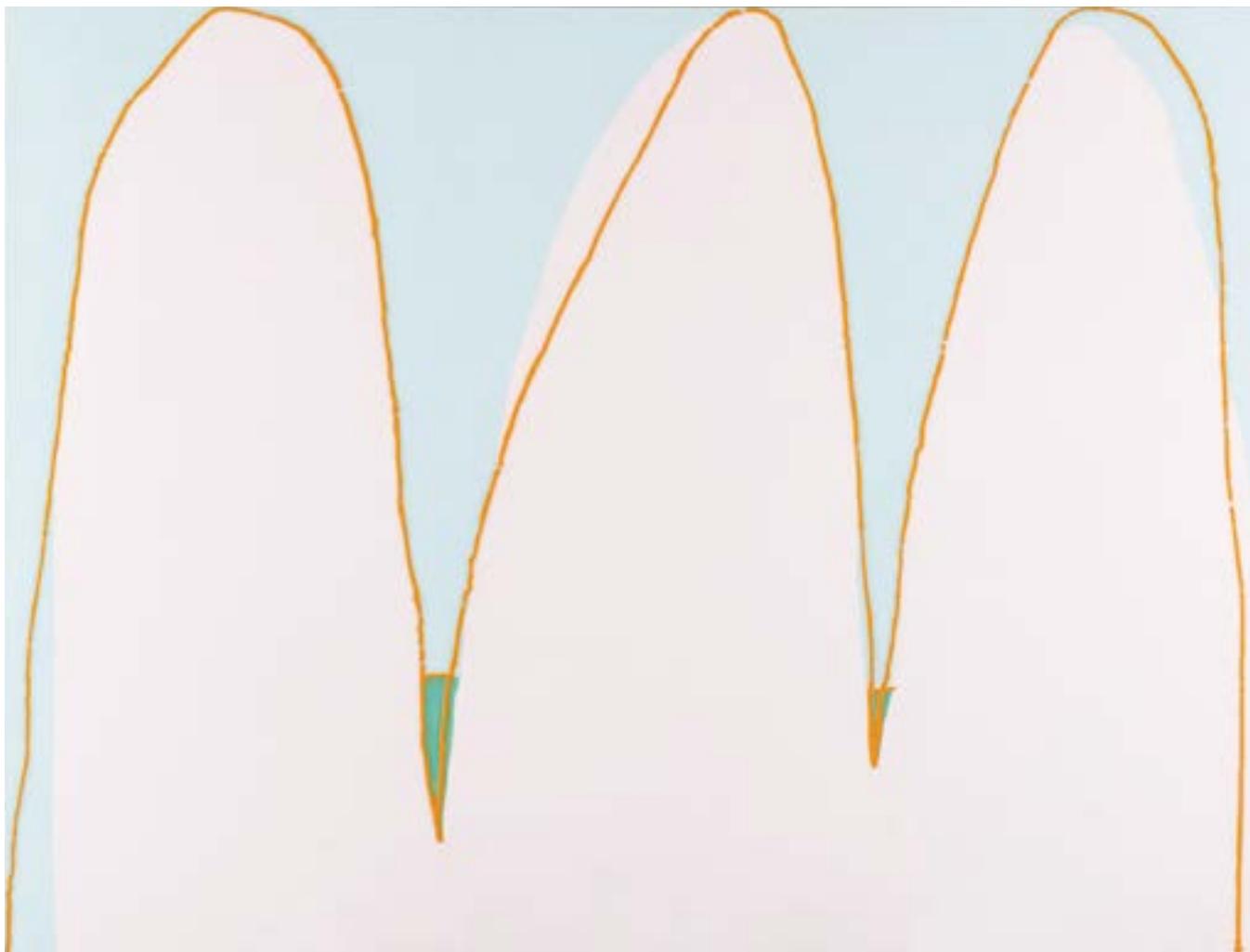


塚本 万理華
TSUKAMOTO Marika

touch me

木、布

H2300 × W1500 mm



常盤 果那

TOKIWA Kana

all

キャンバス、油絵具、アクリル絵具、透明シート

H1940 × W2590 mm



長沼 あかり
NAGANUMA Akari

space lesson II

紙、インク、色鉛筆
サイズ可変



成田 圭
NARITA Kei

surface

パネル、アクリル絵具、メディウム

H1620 × W1620 mm



長谷川 崇平
HASEGAWA Shuuhei

無題

ハーネミュレ、銅版インク

H720 × W1000 mm



畠山 真輔

HATAKEYAMA Shinsuke

ミクニ

液晶モニター

H1750 × W1260 mm



東本 伊代
HIGASHIMOTO Iyo

あなたはそれをとることもできるし、
とらないこともできる

木、鉄、布、塗料、モニター、モーター、
石、樹脂、ガラス

10分38秒（映像）、H2000 × W2700 × D2000 mm



保谷 慶子
HOTANI Keiko

the history

鑑賞者がプレーヤーのスタートボタンを押し込み、レコード再生する。

レコードプレーヤー、
12インチレコード（ダブルプレート）、スピーカー
サイズ可変



松田 夏帆
MATSUDA Kaho

天体観測のための手遊び

毛糸

サイズ可変



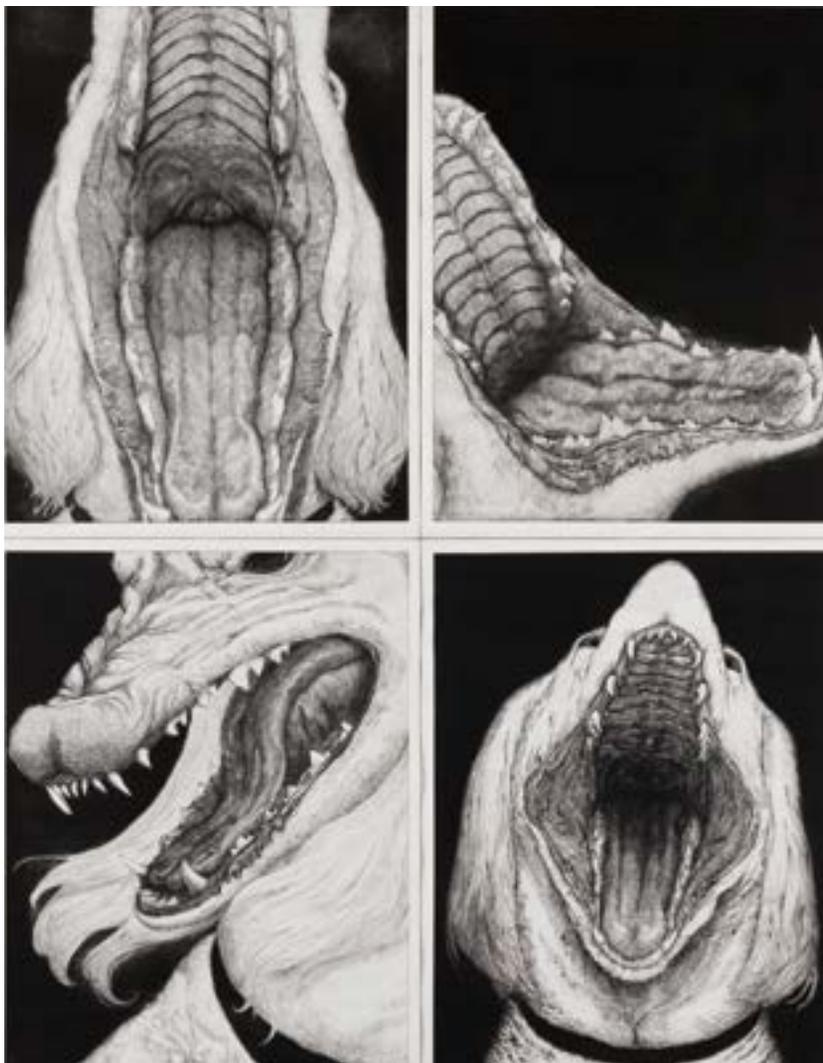
水谷 遥

MIZUTANI Haruka

あのひの

ミクストメディア

サイズ可変



森 桜子

MORI Sakurako

自画像

インク、紙、パネル

H940 × W740 mm × 4枚



森島 彩乃

MORISHIMA Ayano

あっちにいて

ミクストメディア

H1200 × W850 mm × 2枚



安田 曜
YASUDA Akira

bad shit

映像・音声を含むインストール

3分45秒（映像）、サイズ可変



山口 大空
YAMAGUCHI Sora

to exhibit

ミクストメディア
H1500 × W2500 mm



山口はるか
YAMAGUCHI Haruka

着ぐるみ

鉄

H1900 × W2600 × D1300 mm

Oil Painting, Printmaking

油画·版画

Master

修士 [美術研究科]

Name

井藤 叶多

伊藤 菜穂

今井 歩美

川西 里奈

高橋 天真音

檜井 真琴

野木 海生

林 可奈葉

林 由佳子

林 玲翔

水谷 彩乃

吉田 尚郁



井藤 叶多
ITO Kanata

-0

油絵具、キャンパス、スタイロフォーム、ステープル
H1820 × W1120 mm × 2点、H1820 × W180 mm



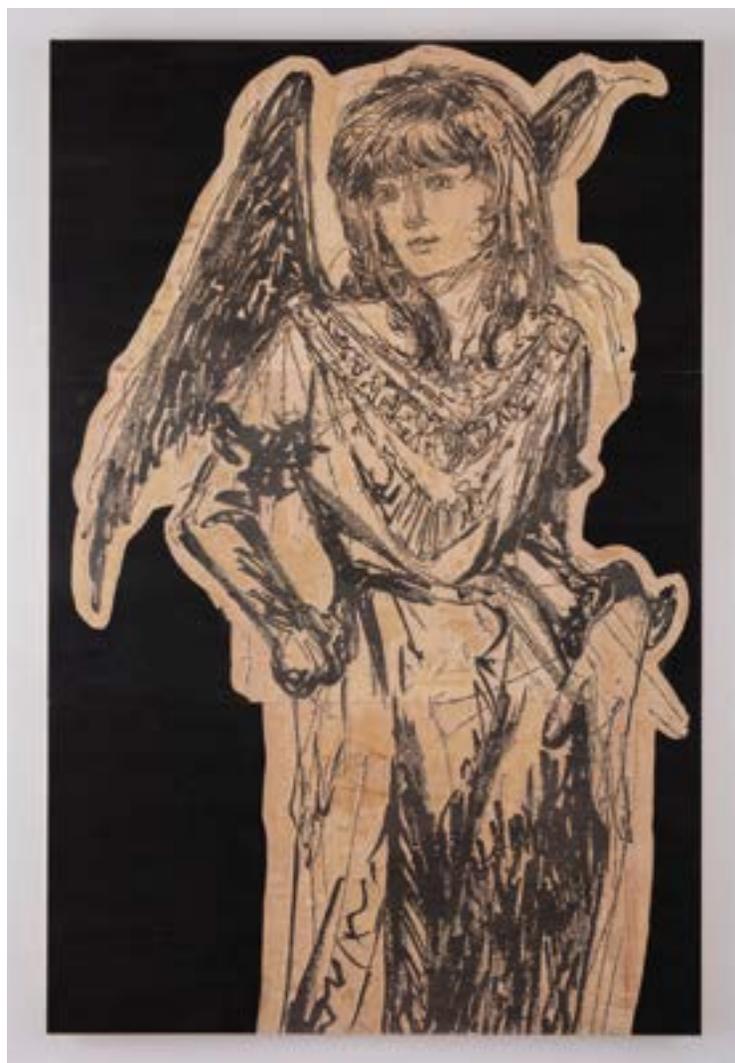
伊藤 菜穂

ITO Naho

ある座と図

キャンバス、油絵具

H3560 × W2590 mm



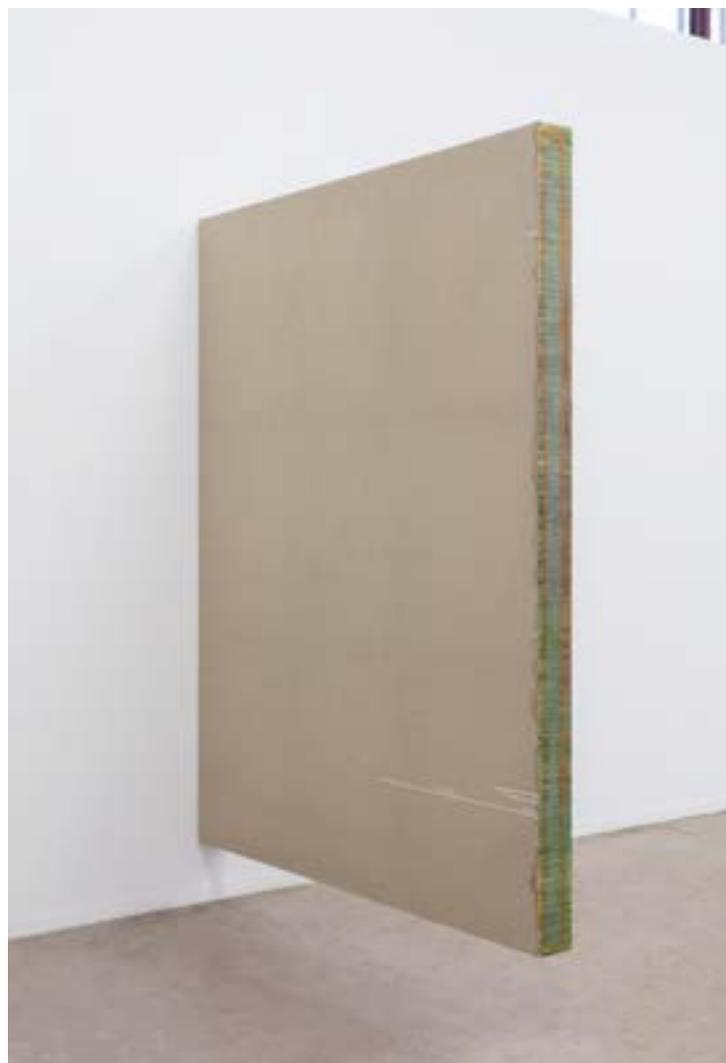
今井 歩美

IMAI Ayumi

幻の登山

シナ共芯合板、墨汁、木彫

H2745 × W1800 mm



川西 里奈
KAWANISHI Rina

現実 VS ファンタジーは前後する

キャンバス、油絵具

H2273 × W120 mm



高橋 天真音
TAKAHASHI Amane

フォレスト

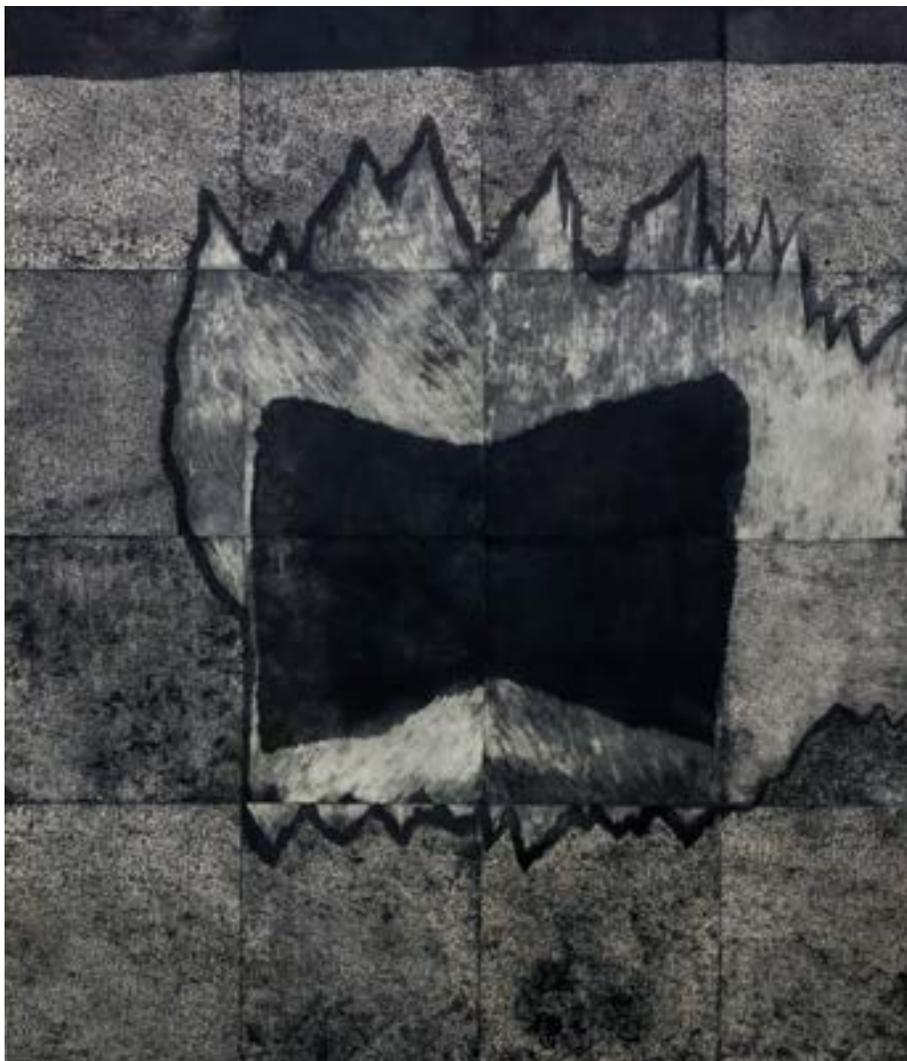
和紙、油性木版、水性木版
サイズ可変



梶井 真琴
NARAI Makoto

生きる喜び

合板、角材、油絵具など
サイズ可変



野木 海生
NOGI Mio

ここはクラーング

雁皮、キャンソソ紙、油性インク

H1600 × W1400 mm



林 可奈葉
HAYASHI Kanaha

存在する、確認する

綿布、アクリル絵具、木炭、岩絵具、フェイクパール
H1455 × W2273 mm



林 由佳子
HAYASHI Yukako

My Moon!

キャンバス、アクリル絵具、色鉛筆、クレヨン

H1940 × W2590 mm



林 玲翔

HAYASHI Rioka

world

ダンボール、インクジェットプリントなど
サイズ可変



水谷 彩乃
MIZUTANI Ayano

Decorate the curse

油性インク、銅板、ハーネミュレ

H1100 × W750 mm



吉田 尚郁
YOSHIDA Naofumi

2023-D-1

キャンバス、油絵具、布テープ

H1620 × W1303 mm

Sculpture 彫刻

Bachelor 学士 [美術学部]

Name 石 泰一
今井 涼
勝見 美吹
北村 あかり
内藤 みなも
新山 珠羽
水野 リオ
矢田 暁葉
幸 千尋



石 泰一
ISHI Taichi

二畳にひろがる

石膏、木材、園芸テープ

H1800 × W1800 × D1800 mm

ひとになにかを伝える。

伝えるのは他者のために整えた形。



今井 涼
IMAI Ryo

オリーブにナイフと
シュガーミルクティー

ミクストメディア
サイズ可変



勝見 美吹
KATSUMI Ibuki

私の海を泳ぐ

布、刺繍糸、ポリエステル綿、スタイロフォーム、
アクリル絵具、パステル、色鉛筆

H1000 × W6000 × D7000 mm



北村 あかり
KITAMURA Akari

8/24 h

どうやら人生の1/3を意識のない状態で過ごしてしまったらしい。

石粉粘土、アクリル絵具
サイズ可変



内藤 みなも
NAITO Minamo

たれそかれ

朴の木、櫨、楠、鉄
サイズ可変



新山 珠羽
NIIYAMA Syu

雨宝童子謁見廟

天照大御神が雨宝童子の姿となり、現世に顕現なされた。
謁見の間と時を体験する観者はどう受け取り、何をどう感じるか。

木材、石粉粘土、和紙

H2000 × W2000 × D2500 mm



水野 リオ
MIZUNO Rio

ゆいな

愛知県で出会った彼女は、私を苦しい過去の記憶から救ってくれました。
卒業してこの地を去る前に、彼女への感謝としてこの作品を作りました。

石膏、紅茶、コーヒー

H1700 × W550 × D1100 mm



矢田 暁葉
YADA Ageha

nonsense

ミクストメディア
サイズ可変



幸千尋
YUKI Chihiro

Day dream

模造紙、垂木、アクリル絵具、水性ペンキ
サイズ可変

Sculpture 彫刻

Master 修士 [美術研究科]

Name 青田 ヒロミ
青柳 諒
今川 理恵
齋藤 里奈
酒井 今日子
五月女 かおる
内藤 光穂



青田ヒロミ
AOTA Hiromi

希

パラフィン、銅板、木材
H2100 × W650 × D650 mm



青柳 諒
AOYAGI Ryo

遊び

木
サイズ可変



今川 理恵
IMAGAWA Rie

ぬくもりあつめて暮らしを愛でる

陶に釉薬、紐、真鍮、銅線、ビーズ、蜜蝋
サイズ可変



齋藤 里奈
SAITO Rina

ぼやけた世界のこと

ジェスモナイト

H1770 × W410 × D390 mm



酒井 今日子
SAKAI Kyouko

けしきをうつす 溝について

和紙、漆、竹ひご、石粉粘土
サイズ可変

場所への興味や、そこで得た印象を造形化する創作研究の一つである。
本作品は学内に存在する「溝」をテーマに造形した。



五月女 かおる 空(から)のシミュレーション

SOTOME kaoru

金属

サイズ可変



内藤 光穂
NAITO Mitsuho

おきらせる

これからのために

塩ビパイプ、ビニールロープ、毛糸、布、その他
サイズ可変

Design **デザイン**

Bachelor **学士** [美術学部]

Name			
	青山 紗也	鍛治 奈緒子	橘 穂
	浅貝 宇乃	片岡 佑衣	田中 杏菜
	天野 未貴	神谷 龍	鳥本 優衣
	新井 瞳	工藤 あずさ	林 茉央
	荒木 沙月	久保田 将平	藤田 彩花
	伊藤 晴香	倉地 杏実	松永 祥太郎
	稲葉 雪乃	黒江 ののか	松本 朝陽
	今川 聖也	小林 愛生	山本 葉奈
	上原 瑠音	紫川 詩織	山本 丸楠
	内海 凜香	篠田 めい	渡辺 冴香
	遠藤 那美	鈴木 真織子	渡邊 由衣
	大西 真央	大工 天寧	
	奥村 哲太	滝川 晴菜	



青山 紗也

AOYAMA Saya

両親の死と向き合う
～がんのステージを刺繍で表現する～

布、ビーズ、スパンコール、ガッシュ

H800 × W400 mm × 4着

がんには4つのステージがある。それを視覚的に表現するために半透明の衣装を体に見立て、色彩の滲みとビーズ刺繍でがんの進行を表すと共に私の内面的な思いも反映させた。



「ぼくの町」は、ぼくが住んでいる町をイメージして描いた。ぼくが住んでいる町は、ぼくが住んでいる町だ。ぼくが住んでいる町は、ぼくが住んでいる町だ。



浅井 宇乃
ASAKAI Uno

ぼくの町

紙

H210 × W148 mm



天野 未貴
AMANO Miki

Nululun

水、アガー、砂糖、こんにゃく粉、紅茶
φ 32 × W600 mm

なめらかな快感を楽しむもの。

手で握ったり、肌にあてがったり、足で踏んでみたり。



新井 瞳
ARAI Hitomi

ありもしないきつね

写真

H1030 × W728 mm × 10 枚

私たちの生活に深く根付く「きつね」がつく言葉や言い伝え。現代に実在するはずがないそれらを可視化表現した。生活のリアルな断片を切り取った表現で鑑賞者の視点に揺らぎをもたらしたい。



荒木 沙月

ARAKI Satsuki

MADE BY DREAM

半光沢紙にインクジェット印刷、樹脂粘土、木材、綿、3Dプリンタ出力など

W336 × H238 mm × 50 枚

幼い頃に抱いた夢は今よりもずっと自由だ。しかし、大人になると漠然とした夢の正体が明らかになり、挑戦する事さえ臆病になってしまう。そんな今でも幼少期に夢見たものは、人の数だけあるはずだ。これは、出来ないと言ったあの頃の願望を形にする事で、あなたの夢を叶えるきっかけを作る為の作品である。



伊藤 晴香
ITO Haruka

UV レジンのあたらしい美

UV レジン、金属パーツなど

約 H30 × W25 × D25 mm (ピアス)
約 H230 × W150 × D5 mm (ネックレス)
約 H20 × W20 × D25 mm (リング)

UV レジンに対して既存の手段以外での造形アプローチを行うことであたらしく美しい表現を見出し、それをアクセサリに加工・展示することで UV レジンという素材の発展性と可能性の提示を行う。



あ
の
そ
ら
の
ぼ
く
ら



稲葉 雪乃
INABA Yukino

あ
の
そ
ら
の
ぼ
く
ら

自由気ままにゆるりと生きる 小学生の日常を描いた漫画

紙、漫画

H182 × W182 mm



今川 聖也
IMAGAWA Seiya

INFLATE

タイベック生地、木、合成樹脂

H180 × W180 × D180 mm
H520 × W270 × D80 mm

紙風船を叩き続けると、萎むことなく膨らみ続けます。この叩くと起こる内部気圧の変化と、紙素材の特性を利用し、INFLATE を研究・開発しました。折り紙の構造を持ち、叩くことで形態が膨らみ、叩く感触も変わる造形のデザインにより新たな遊びを提案します。



上原 瑠音

UEHARA Ryune

Open the "Book"

画集、グロスコート紙、ABS、ゴム

H277 × W198 mm、H253 × W180 mm、
H310 × W250 mm、H303 × W232 mm、
H296 × W242 mm

「ユーモアで人と人を繋げたい！」

かつて教室で孤立していた時、ユーモアが人と私をつなげてくれた。人を傷つけない驚きが、人の心を一気に近づける。知らない人とでも、つい笑ってしまう！そんな体験をあなたに。



内海 凜香
UTSUMI Rinka

ウミネコのおめかし

シナノキ、アクリルガッシュ、ゴム印、紙
サイズ可変

日本の有人離島を舞台に、それぞれの島の個性を身にまとったウミネコを考えました。島の見どころや特産品をあしらった装いは、島への理解を深められた時により面白みを感じられる。木彫の持ち手が付いたスタンプが島々に設置してあることを想定しており、離島を遠い存在に感じる人も親しみを持って、行ってみたくなることを目指している。



遠藤 那美

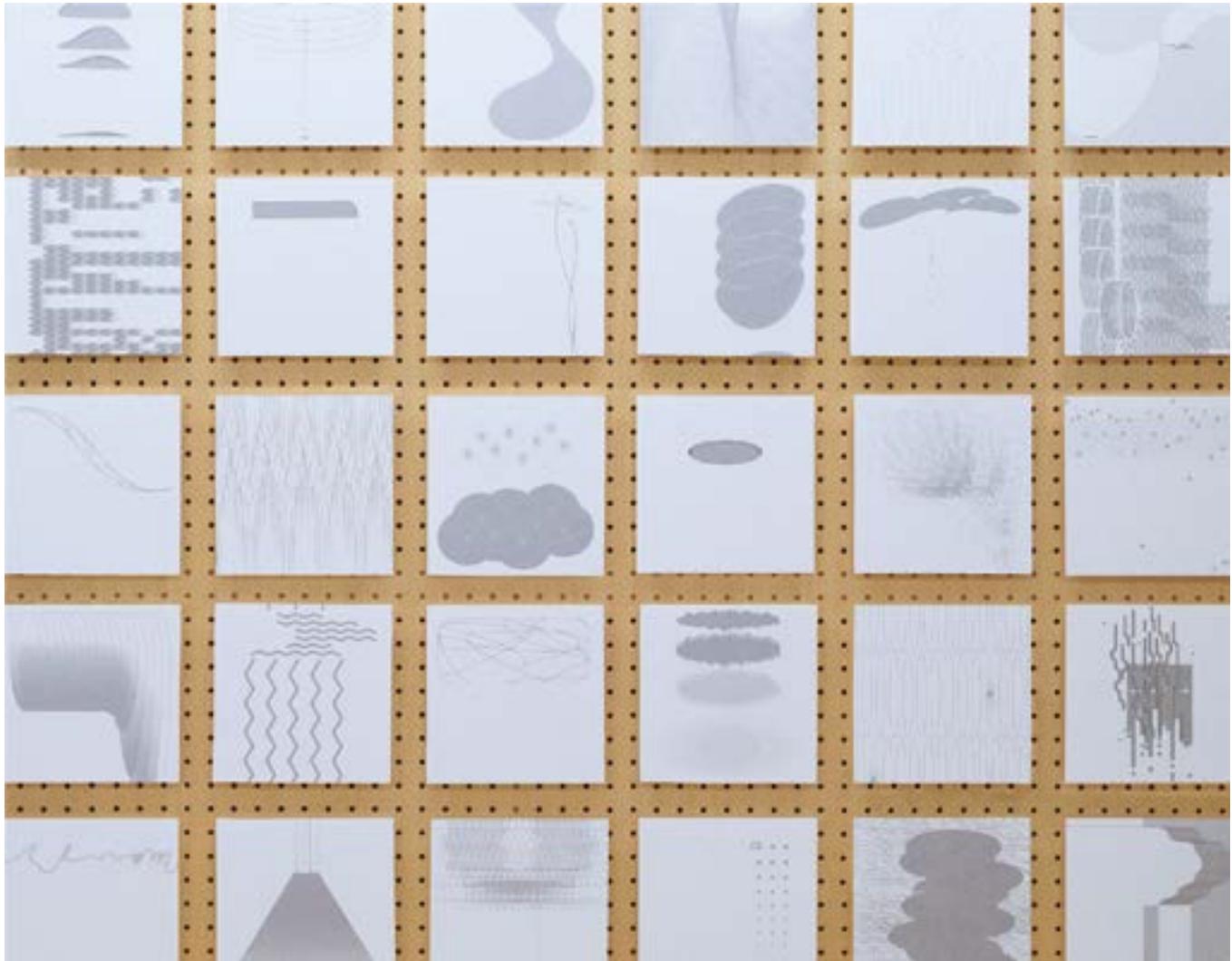
ENDO Nami

不都合なリアル

フリース、羊毛フェルト、綿

H350 × W180 × D150 mm、H260 × W220 × D190 mm、
H360 × W190 × D300 mm、H390 × W210 × D270 mm

不快に感じる要素は省かれ、愛玩目的としてつくられたぬいぐるみを用いて、本来ぬいぐるみの用途として必要のない体の内側の器官を我々生命と同じように存在させたものを制作した。私達が生活を送っている中で、隠すべきとされ表に出されないものに対する向き合い方を再考する。



大西 真央

ONISHI Mao

water

新局紙

H190 × W190 mm

人は、他者を異なるものとして認識しつつも、同じものであると試みている。しかし、どのようにして私と異なるものが同じとなるのだろうか。自身の感覚に素直になって表された水は、他者にも同じ水として映るのか。あるいは、曖昧で未知なまとはずれな水として映るのか。自身にある感覚のエッジは、新たな知覚の断片になりうるのだろうか。



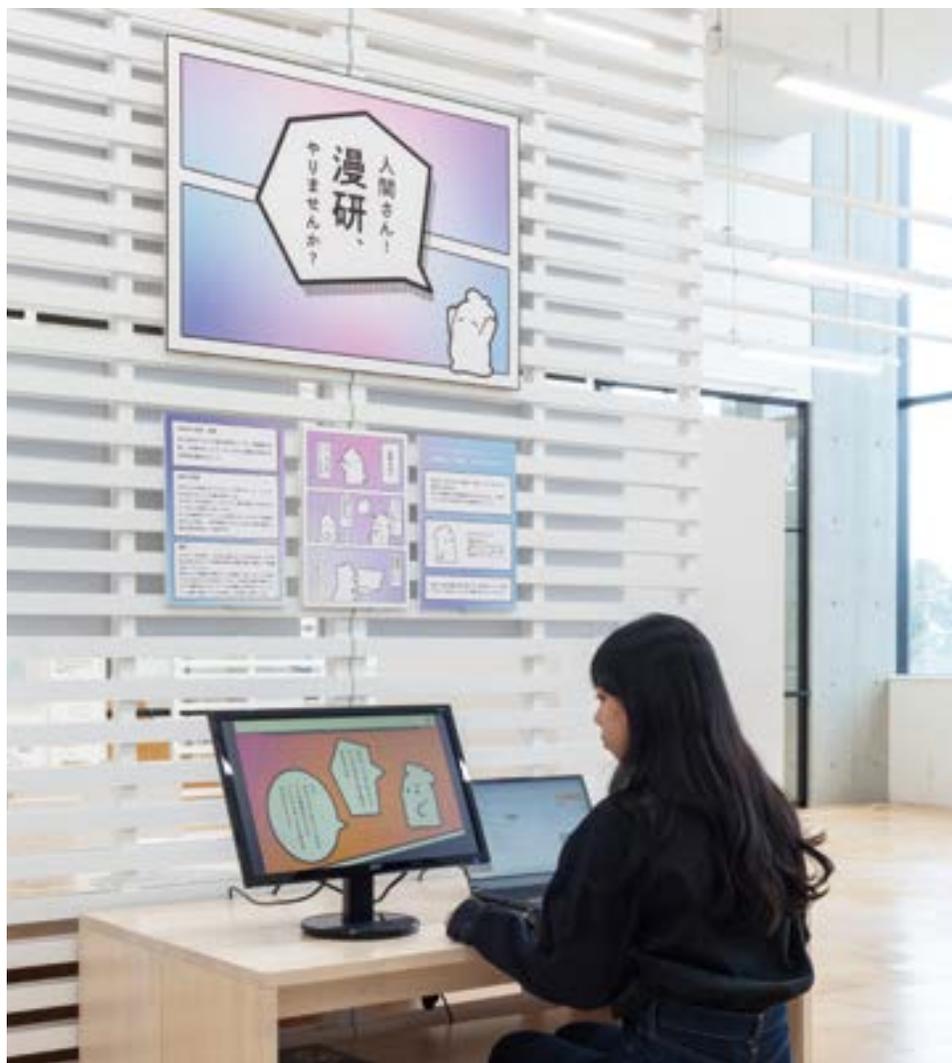
奥村 哲太
OKUMURA Tetta

人体拡張具

ダンボール、木材、鏡、ポリウレタン

H500 × W600 × D450 mm × 4点
H594 × W841 mm × 4枚

「人の体の拡張性と可能性」をテーマに人が身に付けて擬似的に体の拡張性を体験できる装具。今の人になる過程で失った器官や機能を調査して4つの拡張具を制作した。現在の人だからこそ身に付けることで得られる新たな体の可能性を追求した作品。



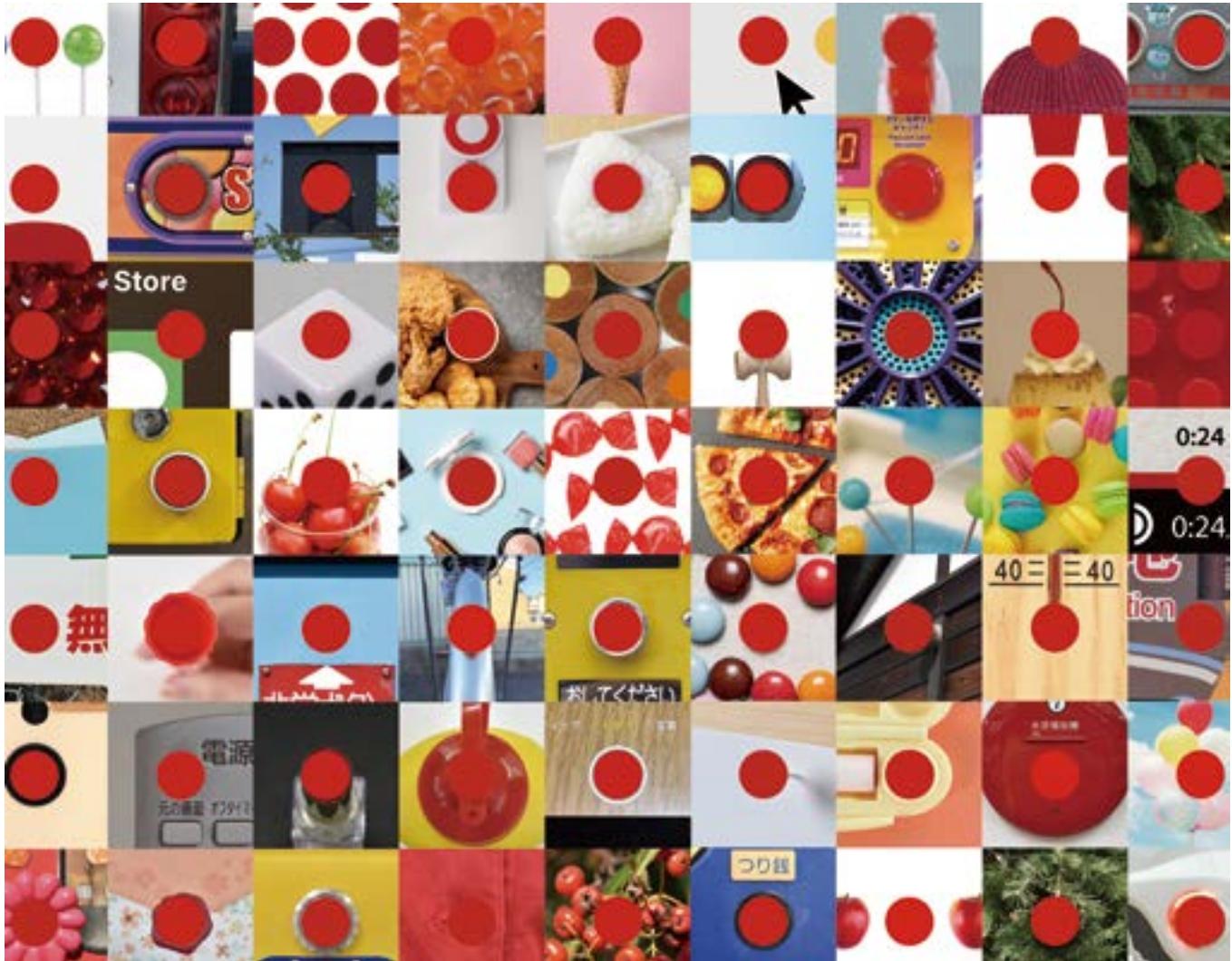
鍛治 奈緒子
KAJI Naoko

人間さん！漫研、やりませんか？

AIと協力し漫画を作りだす場や動線のデザイン。

映像、WEBサイト

18インチモニター、ノートパソコン



片岡 佑衣

KATAOKA Yui

赤い丸

42インチモニター、ノートパソコン、木材

H2300 × W950 mm (表示モニター台)

H850 × W180 × D180 mm (スイッチ台)

おにぎりの梅干し、いくら、赤信号、サイコロの1、けん玉の球、赤色鉛筆の芯、マーブルチョコ、ピザのサラミ、録画ボタン、押しボタン信号機、ラインストーン、サンタの鼻、緊急停止ボタン、さくらんぼ、クリスマスボールオーナメント、朱肉、アプリの通知、自転車のリフレクター…ぜんぶ赤い丸。



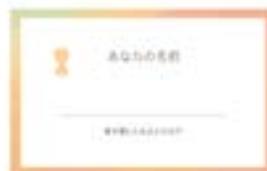
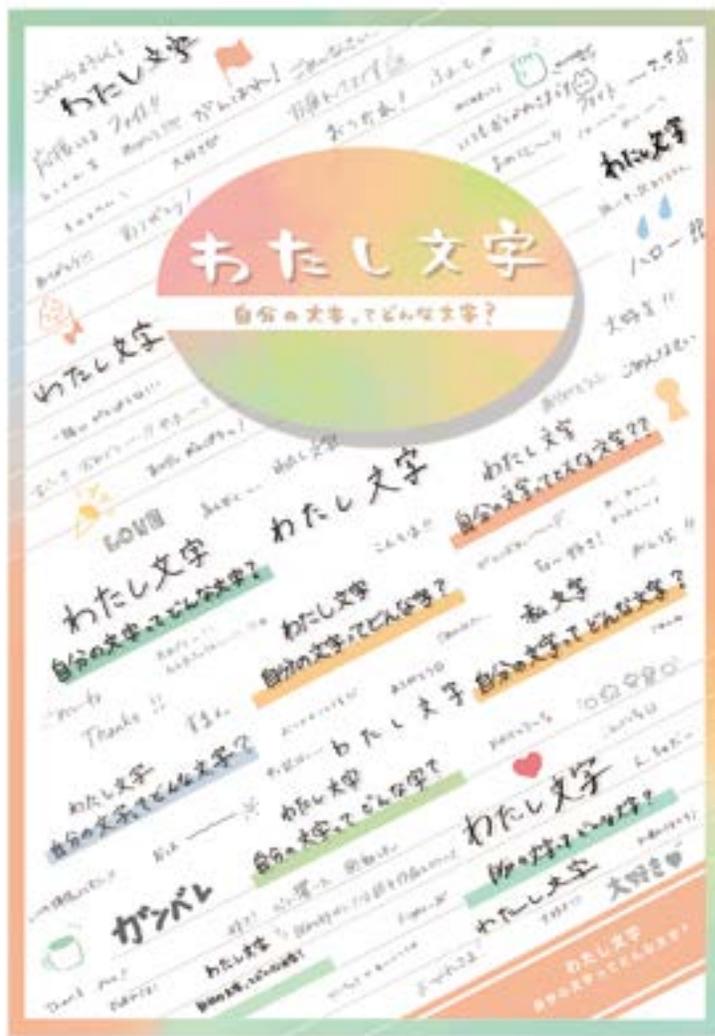
神谷 龍
KAMIYA Ryu

TRICKS

A7075

H1100 × W400 × D1040 mm

TRICKS は新しいタイプの遊ぶバイクです。中央に配置されたシンボリックなサスペンション、サドルレスのフレームデザインにより、アクロバティックに乗りこなします。



工藤 あずさ
KUDO Azusa

わたし文字
自分の文字ってどんな文字？

上質紙
H275 × W91mm

実際に書き込む体験作品です。



久保田 将平
KUBOTA Shohei

癬ラボ

ABS、アクリル、ケイカル板
H2500 × W7500 × D1850 mm

作品は癬の疑似体験物である。体験を通じて、ネガティブに捉えられがちな癬が、一概に否定されるばかりでなく受容される可能性を探る。またこの体験を例えとし、私たちの常識とは何なのかを問いかける。



@AMI_MAINICHI_AMU

倉地 杏実
KURACHI Ami

あみのあみ

日々の感情の揺れ動きを記録し可視化する

ミクストメディア

H2000 × W4500 × D4500 mm



黒江 ののか
KUROE Nonoka

写真集 ice cream

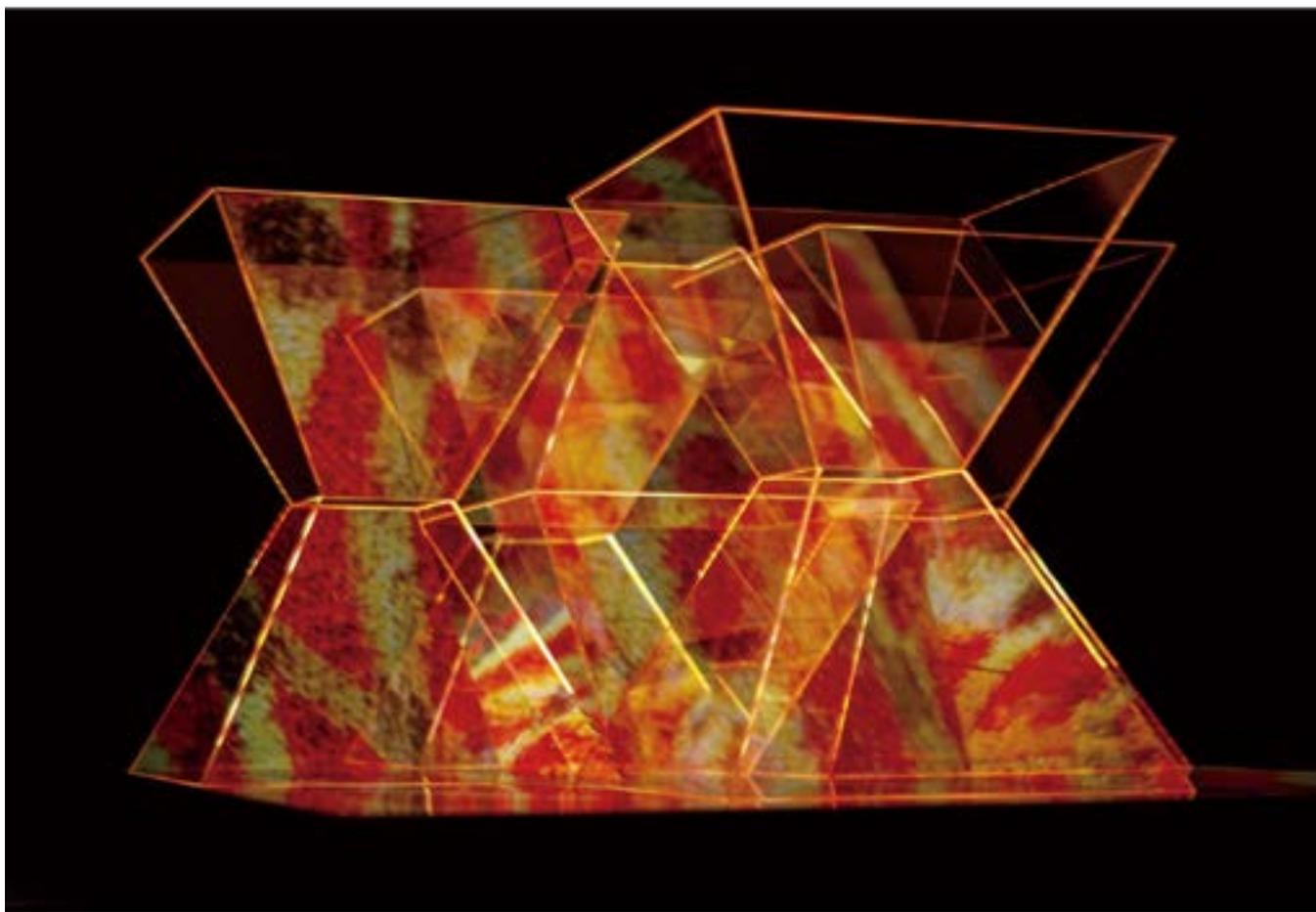
NT ラシャ紙、トレーシングペーパー

H255 × W370 × D30 mm

大切な人との穏やかな一瞬は溶け去ってしまう。

無防備に笑う姿をいつまでも留めていたい。

あなたが私を信頼している時に浮かべる表情が、私にシャッターを切らせる。



小林 愛生
KOBAYASHI Ai

虫の魅力にズームズームイン！
県芸 2019～2023

♡県芸で出会った虫♡

ミクストメディア、映像、アクリル板
サイズ可変



紫川 詩織
SHIGAWA Shiori

syuku - 縮

ちりめん、映像
2分

「ちりめん」とは一般的に着物やちりめん細工などに使われる表面が凸凹した布である。ちりめんの前の状態「生機」を熱湯に漬け込むと、急激に縮み、ちりめんとなる。この生き物のように縮む様を記録し、素材らしくなる過程にフォーカスした。



篠田 めい
SHINODA Mei

lettea.

手紙とお茶が届く定期便の提案。改めて手書きの良さを体感してほしい。

厚紙クラフト紙、ガイア A、グラフィー COC

H190 × W100 mm × 12 枚

H10 × W200 × D100 mm × 1 つ



鈴木 真織子

SUZUKI Maoko

New Type

新聞紙

H406 × W272 mm

「人間って変で面白い」をテーマに未来の人間を想像し、文章とイラストでまとめたアートブック。人体の不思議や文化に関するリサーチを元に未来に生きる人を10人制作した。人間のバラエティ豊かさを見つめ直し、まだ見ぬ人の可能性を楽しむ作品。



大工 天寧
DAIKU Amane

「今日のこと」

数秒後には忘れてしまっているような、何気ない日常の会話の記録

インスタントフィルム
H86 × W108 mm



A B C D E F G H I J
K L M N O P Q R S T
U V W X Y Z
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

滝川 晴菜
TAKIKAWA Haruna

押しレンズ

ミクストメディア、ABS

H300 × W300 × D200 mm
H60 × H60 × D10 mm × 34点



Finger Trip

触覚伝達
デバイス



橘 穫

TACHIBANA Minori

Finger Trip

ABS

H145 × W100 × D100 mm

Finger Trip は、完全自動運転車に搭載される触覚伝達デバイスである。周囲の状況や景色を、点字を応用したドットの出力で表現し乗員に伝えることで移動への不安をなくし、移動を楽しむ為のアシストを行う。

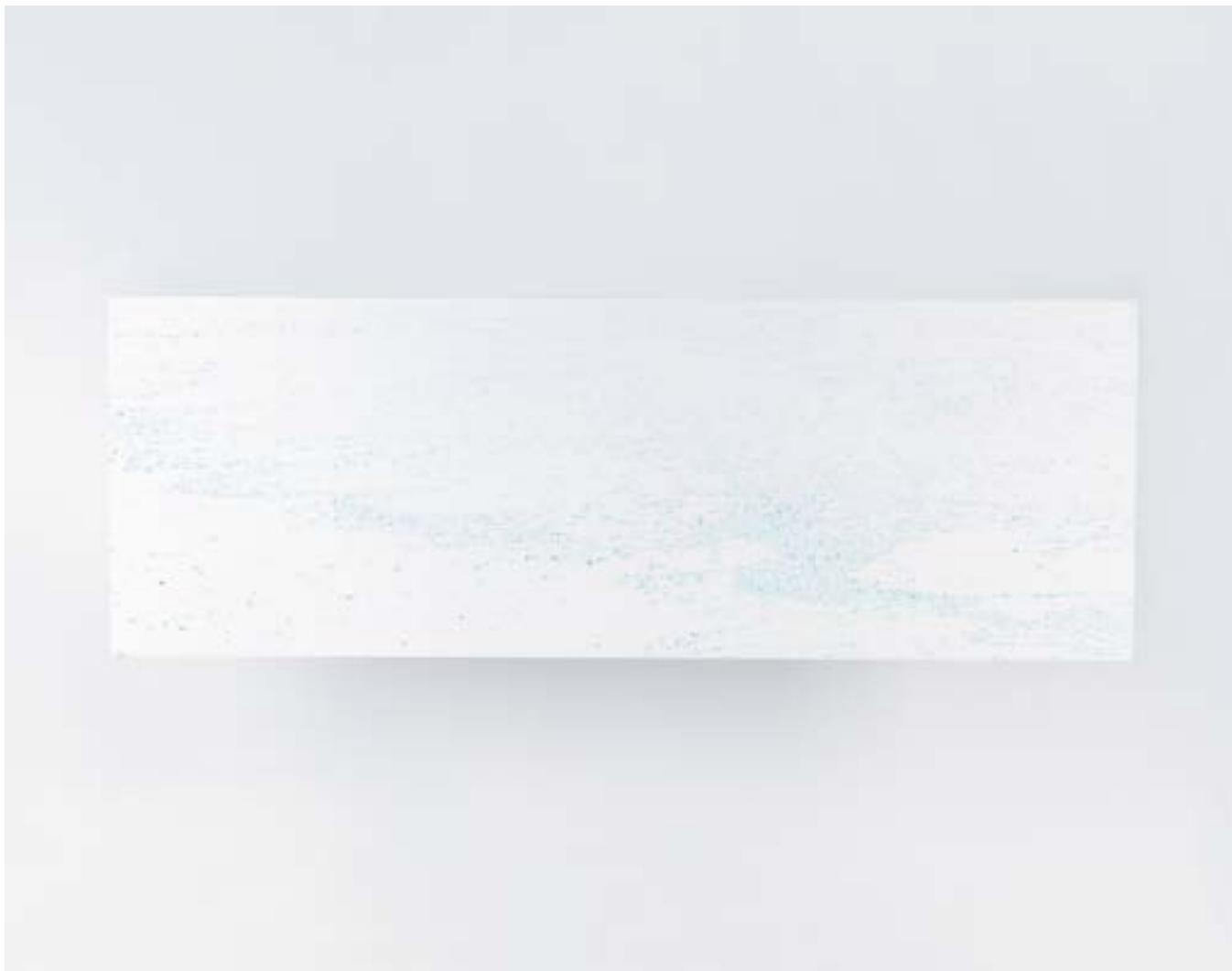


田中 杏菜
TANAKA Anna

時代で見る！ ガチャガチャの「もしも」

紙、映像、木、粘土、ケイカル板
H2250 × W5460 × D455 mm (パネル)

ガチャガチャは時代を捉える物差しだ。どのようなコンテンツであったとしても、別角度の視点を持つことで新たな価値を生み出すことができる。そこで、私の趣味であるガチャガチャに「時代」という視点を付与し、もしも現代ではない時代にガチャガチャがあったならどのようなかたちをしていたのかを提案する。



鳥本 優衣
TORIMOTO Yui

The immanent sea

ミクストメディア、水彩絵具、水彩紙

H700 × W2000 mm



林 茉央

HAYASHI Manaka

きにしちゃんと気にしいさん

ミクストメディア

サイズ可変

HSPについての知識を、漫画やイラスト、文章を通して知ってもらう。
「気にしすぎ」に悩む人の手助けに少しでもなれたら良い。



藤田 彩花
FUJITA Ayaka

シク・ハック

些細な日常にもストレスを感じてしまう自身の脆さを受け入れて生きていくための、ライフハックシリーズ。

紙、写真、冊子など
H210 × W148 × D5 mm



松永 祥太郎
MATSUNAGA Shotaro

ニジョウノハコ

木材、布

H1800 × W1800 × D1800 mm

扉を開け、内部に入ることができる箱。

大人一人が立って寝ることができる二畳のサイズ。

動きと変形、空間の印象といった古典的な問いを今一度考え体験してもらおう。



松本 朝陽
MATSUMOTO Asahi

「車窓」をテーマとした15のモビリティ

車窓を眺めるという移動する楽しみの原点に立ち返り、移動の潜在的な価値を新たなモビリティとして提案することで「車窓」の可能性を上げたいと考えた。

デジタルメディア

サイズ可変



山本 栞奈

YAMAMOTO Kanna

polycy objet

中空ポリカーボネート、アクリル板
サイズ可変

ポリカ特有の光の現象を研究しその表情をより凝らすことで非実用的な側面からポリカの在り方を考える。この制作では、日が差し込む屋内に佇むオブジェとしてポリカの魅力を昇華した。



遊びにおける「間合い」の研究



山本 丸楠

YAMAMOTO Tamagusu

遊びにおける「間合い」の研究

合板、角材

サイズ可変

これまで私は課題や個人でのボードゲーム制作販売など「遊び」を中心に制作を行ってきた。制作の中で、遊びにおいて「間合い（人と人の距離や高さ、位置等）」は、体験に没入させるための大きな要素であると感じた。この卒業制作を通して「間合い」による心理変化を体験として理解し、今後の制作活動の幅を広げたい。



渡辺 冴香
WATANABE Saeka

反抗期のえんぴつ

鉛筆、樹脂、合成樹脂塗料など
H180 × W8 × D8 mm × 30点

変化を怖れる真面目な私は、変化のない真面目なえんぴつに自身を重ねる。
様々な姿に変芯していく彼らは、私自身のなりたいたい姿。
これは、人生のルールに反抗するためのえんぴつ。



渡邊 由衣
WATANABE Yui

しずかな共鳴

インタラクティブアート (CG 作品)

サイズ可変

人は落ち込んだ時、頭上に咲いている桜でさえ見上げることができない。ただ桜は散り、花びらとして足元に広がることで桜を見上げるほど元気がない人にもその美しさを届けることができる。

Design デザイン

Master 修士 [美術研究科]

Name 石川 菜々子
上野 航祐
江坂 由莉
汪 力
晏 瀾珊
蔣 旭強
杉本 真由子
張 シキ
土田 侑美
野地 祐里子
春木 孝太



石川 菜々子

ISHIKAWA Nanako

まぬけの研究所

ミクストメディア（インスタレーション）

可変

まぬけは本人にとって恥ずかしく、嫌なものかもしれません。しかし客観で見ると、そこに生まれるのは、マイナスの感情ではなく、可愛さ、微笑みさ、親近感といったニュアンスではないか。これらを知ることで、自分や他人の失敗に寛容になり、余裕のあるおおらかな社会の実現に貢献するのではないのでしょうか。

vena,
a typeface
inspired by
the shape of
blood vessels
and flows.



上野 航祐

UENO Kosuke

vena

Typeface



江坂 由莉
ESAKA Yuri

Cups

磁器、樹脂

φ 84 × H90 mm

重さと形が全て同じ4種類のコップ。
重心にだけ、それぞれ異なる偏りを持たせた。
そこから生まれる体感の差からデザインの可能性を考える。



汪力
WANG li

グラフィックシンボルとしての
呪符のデザイン研究
—道教の「呪符」造形にみる表現

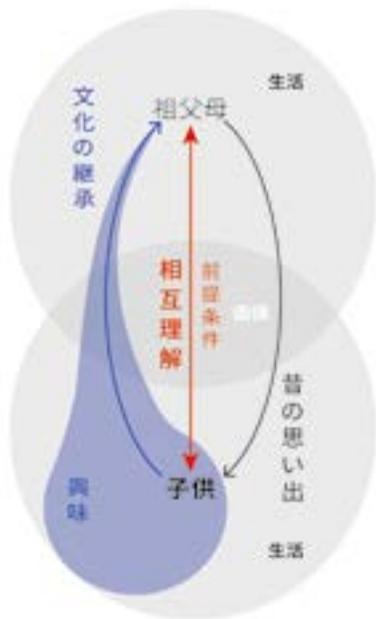
Web サイト

古典的な呪符の歴史と、様々な造形についての調査を通じて、新たな研究の着想を得ました。それは、混乱した呪符の造形ルールを、整理し統一することによって、造形原理が明確な、現代的呪符のありかたを再構築することです。



晏 瀾珊
Yan LanShan

産業遺産のリノベーション
二重性を内包する東山給水塔



ハイパー盆踊り



三途の川を渡っての彼岸



天国への祈り



ハイパーお墓参り

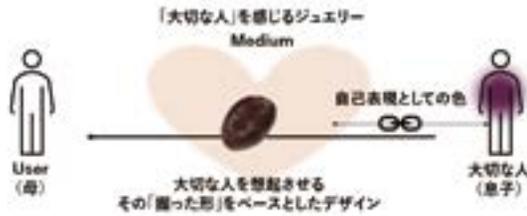


蒋旭強
JIANG Xuqiang

世代間コミュニケーションを
生み出すための研究
—「お盆」のインスタレーションの提案

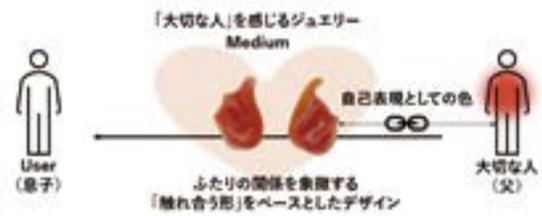
祖先や親族との繋がりを意識しやすい年中行事の「お盆」をモチーフとしたインスタレーションを提案。その体験によってZ世代の意識を変え、年長者とのコミュニケーションを促すきっかけを作る。

The Piece of Soul -魂の具象-



タイトル：くに
サイズ：H 54mm x W 34mm x D 25mm

The Joint of Souls -ふたつの魂をつなぐ形-



タイトル：頬を包み込む形
アイテム：イヤリング
サイズ：H 63mm x W 38mm x D 35mm

杉本 真由子
SUGIMOTO Mayuko

大切な人を感じるジュエリー
- Contemporary Sentimental Jewellery -

Pâte de verre

大切な人の存在を感じられるものを、身につけたい、傍に置きたい、残したいという強い気持ちに答え、ユーザーに幸福感をもたらす Contemporary Sentimental Jewellery としての「大切な人を感じるジュエリー」をデザインし提案する。そうすることで、現代のセンチメンタルジュエリーをより豊かにしていくことを目的とした。



張シキ
ZHANG Zhiqi

This is a pair of Levi's

Made passes, style remains.

拓本、紙

H1030 × W707 mm × 2点、H707 × W500 mm × 2点
H500 × W353 mm × 8点、H353 × W250 mm × 6点



土田 侑美
TSUCHIDA Yumi

ZOO っと BOUSAI

ビジュアルコミュニケーションを用いた楽しく学べる防災知育を制作

ミクストメディア
可変

自分たちが住む「まち」について書いて話す絵馬

まちづくり絵馬

「まちはどうなって欲しい」
まちに対して目録書いていることを絵馬を
通して表に出してあげる。それぞれの思いや
気づきからより良いまちの姿が見えてくる。



1 絵馬を書く

生活している中で「まちに対して、ま
ちこうなって欲しい」と思っていることを
絵馬に書き出す。

例えば、「あの道が窄くて危ないから車対面がある
といい」「公園子供を遊ばせたりできるレンタルキ
ャッチンがほしい」「地域の祭りまちがい
えけるなど」。



2 話す

聞き手役の人と「絵馬
になぜそう書いたのか」
を話す。
じっくり話してやることで、
誰の言葉にも気づいてい
ける。



3 見てみる

自分の絵馬を掛けたら、他の人が書いた
絵馬も見でみる。
自分も他者の気づきから学ぶことから、更にまちへ
の考えが広がっていく。



4 記録

絵馬は全てインスタグラム「電子
絵馬掛け」へ投稿される。毎日登
録されたり、誰から新しく誰か
んだことがあれば、「まち絵馬」で
投稿してみよう。



5 分析

webサイト「まちづくり絵馬」では、まちごとにどんな
高があったのかなど、傾向や割合を調べていく。
他の地域での様子も一覽してみることで、驚い
たら面白いであろう。



野地 祐里子
NOJI Yuriko

まちづくり絵馬

ミクストメディア

自分の住んでいるまちについて、日頃思っていることを表明し、またそれと同じまちの人同士で共有するためのコミュニケーションツール。どんな人でも気軽に参加でき、無意識に押さえて入っている気づきを解放できないかと模索しました。



春木 孝太
HARUKI Kota

けびたり

和紙

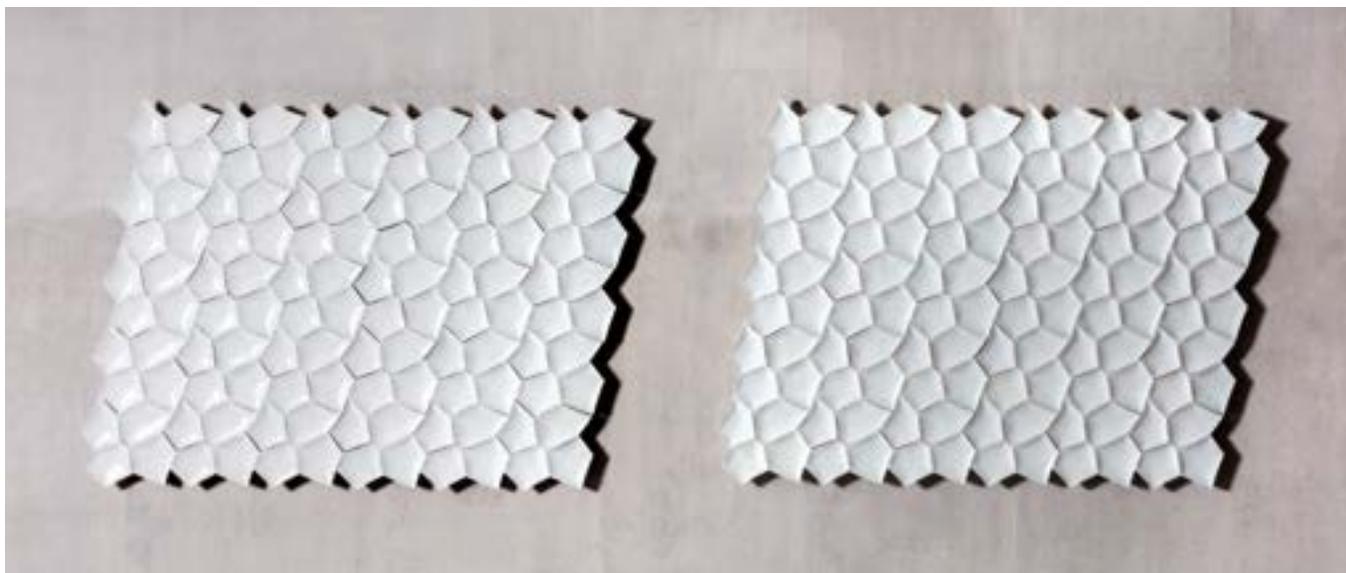
H65 × W65 × D70 mm - H75 × W75 × D80 mm

和紙を裂くとふわっと長い繊維が現れる。
その繊維に触れるとしっかりと柔らかく、実家で飼っている猫の手触りが思い起こされた。繊維から和紙を愛着してみる。

Ceramics 陶磁

Bachelor 学士 [美術学部]

Name 一之瀬 瑠璃
上田 春陽
高井 葵衣
永井 友雪
野口 陽平
馬場 優佳
林 卯唯
三林 沙貴人
柳瀬 可奈子
吉田 風音



一之瀬 瑠璃
ICHINOSE Ruri

TSUCHI

白磁

サイズ可変



上田 春陽

UEDA Haruhi

舞影

白磁

サイズ可変

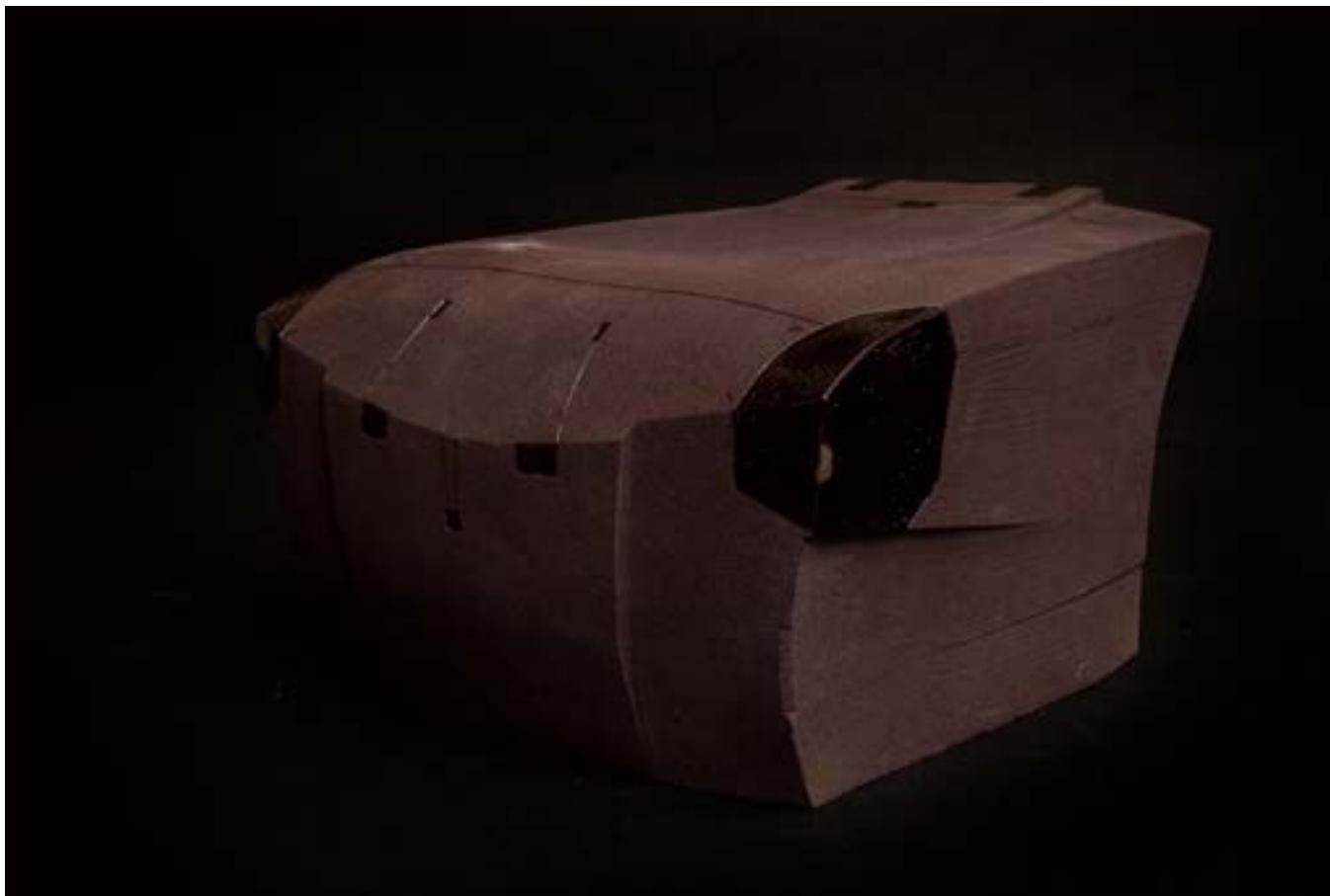
風に揺られて花が舞う。風に揺られて影が舞う。



高井 葵衣
TAKAI Aoi

こもれび

白磁、鉄
サイズ可変



永井友雪
NAGAI Tomoyuki

剛塊

陶土

H180 × W310 × D290 mm



野口 陽平
NOGUCHI Yohei

環 境

点は線に 線は面に 面は点に その中で我々は

陶土

H1640 × W1760 × D50 mm



馬場 優佳

BABA Yuka

擬態

陶土

φ 375 × H90 mm



林 卯唯
HAYASHI Ui

土から生まれる宝石—金蚊—

童心。初心。幼心に見た宝石。

陶土

H280 × W240 × D240 mm



三林 沙貴人
MITSUBAYASHI Sakito

非日 (Daily)

昨日のような 今日 のような明日

磁土、陶土、亜鉛、プラスチック

H180 × W280 × D320 mm



柳瀬 可奈子
YANASE Kanako

もちもちプロジェクト 瀬戸編

パネル、冊子、映像

H841 × W594 mm × 3点



吉田 風音
YOSHIDA Kazane

COCO

猫のためのメモリアルアイテム

白磁

H305 × W180 mm、H148 × W95 mm

Ceramics 陶磁

Master 修士 [美術研究科]

Name 浅野 詩織
李 在弦
角田 茉友



浅野 詩織

ASANO Shiori

onomatopoeia

白磁

φ 210 × H270 mm、 φ 205 × H390 mm、
φ 230 × H260 mm、 φ 215 × H300 mm、
φ 240 × H280 mm



李在弦
Jae Hyeon LEE

四季の茶室

日本の四季によって異なる空の雰囲気や特徴を捉え、その空気感を染付で表現する。

白磁

サイズ可変



角田 茉友
KAKUDA Mayu

赤絵細描「結」

白磁

φ 380 × H70 mm

Art History and Theory

芸術学

Bachelor

学士 [美術学部]

Name

嶋 ほんか
服部 愛
松永 祐季

はじめに

第1章 煙草の受容史

第1節 煙草の伝来と喫煙文化の広がり

第2節 身分制度と禁制令

第2章 煙草入れの概要

第1節 形態

第2節 素材

第3章 浮世絵に見る煙草入れ

第1節 男性

- (1) 役者絵
- (2) 相撲絵
- (3) 庶民

第2節 女性

- (1) 美人図
- (2) 庶民

終章

第1節 結論

第2節 今後の展望

煙草入れとは喫煙具一式をしまう道具であり、お洒落を楽しむ装身具の袋物である。江戸時代前期に伝来した煙草が全国に普及・定着し、その需要に合わせて、初め香盆から転用された煙草盆に加えて、携帯型の煙草入れが生み出され、用いられるようになった。老若男女問わず、庶民の多くに用いられた理由には、喫煙具一式をまとめて携帯することができる実用的な道具としての側面と身を飾る装身具としての二つの側面を持ち合わせていることにあると考える。これまでの研究では、喫煙文化や喫煙具の歴史、形態などが明らかにされてきた。しかし、“人”を中心に煙草入れをテーマにした研究はわずかである。そのため、本研究では歌舞伎役者や相撲取り、遊女など当時のファッションリーダー的存在の人々や、一般庶民の持つ煙草入れについて、浮世絵を通して分析し、職業や性別がその形態や意匠にどのように反映しているのかを明らかにすることを目的とする。

第1章では煙草の日本への伝来と定着、喫煙文化の概要や、装いに関わる制約についてまとめた。喫煙文化が日本全国に広まった当初は、幕府による煙草の栽培や喫煙を禁止する御触れが幾度も出された。しかし、初期の近世風俗画には遊里の室内外で煙草盆を傍に喫煙を楽しむ人々の様子や、ひと気のない神社の隅に隠れて喫煙する人物などがみられ、幕府の御触れに背いてまで人々は煙草に魅了されていたことが窺える。また、装いに関わる制約に関しても幕府などの為政者の目を掻い潜り、素材にこだわり、裏地に凝った装飾をするなどして、道具である煙草入れに装飾性を持たせ、装身具とすることでお洒落を楽しんでいたようだ。

嶋ほのか

SHIMA Honoka

浮世絵に見る煙草入れと人々の生業

第2章では煙草入れの形態や素材についてまとめた。煙草入れを構成するのは、刻み煙草を入れる袋(吠)、腰に提げたり、手に持ちやすくしたりするための根付、それらをつなぐための紐や鎖、その長さを調節する緒締め、蓋の飾りである前金具である。これらの有無や位置によって形態が分けられる。主な形態として懐に入れる懐中ものや腰に提げて携える提げものの二つがあり、前者は「懐中」、後者には「一つ提げ」「提げ」「腰差し」などの種類がある。その上、素材も多種多様で、各部分に用いる素材や、組み合わせのうまさなどで、所有者のセンスが判断された。

第3章では浮世絵をもとに歌舞伎役者・相撲取り・遊女・一般庶民の男女が所持する煙草入れの形態や意匠の特徴について分析した。

男性の多くは提げ煙草入れを携えることが多い。舞台上の歌舞伎役者や相撲取りなどは根付や緒締め、前金具などに意匠を凝らした大きな提げ煙草入れを携えている。役者の定紋や役柄、相撲取りの名前に因んだ紋様を前金具や袋にあしらい、根付を大きくし、鎖の数を増やすなどして持ち主の性や力強さなどを誇示するようなものが多くみられた。屋外で身体を動かして働く駕籠舁や馬子、棒手振りなどは実用性に優れた煙草入れを腰に提げて携えている。装飾しやすい根付や前金具なども、使いやすいシンプルな形に整えられ、喫煙具を運ぶための道具としての煙草入れであることが多い。また、これらの人々に加え、旅人などは赤色の煙草入れを提げていることが多く、仕事での事故や旅先での災難などから身を守るお守りとして煙草入れを携えていた可能性が考え

られた。

一方で、女性の多くは着物の帯幅が広い提げ煙草入れよりも懐中煙草入れを携えることが多く、男性と比べて喫煙具を所持している姿を確認することが難しく、作例も少ないが、男性の煙草入れが提げ煙草入ればかりであったのに対し、女性の煙草入れは懐中・提げ・腰差しなど、多様な種類が見られた。このことから、煙草入れの形にこだわり、装身具として煙草入れを捉えることが多かったのではないかと推測する。室内で働く遊女は客前で煌びやかな煙草盆を使用し煙草入れを携えないが、休憩時に自身で詠えたお気に入りの煙草入れを取り出して休憩する姿が見られた。休憩時の姿は客前では見せない一人の人間としての姿として見え、煙草入れが所有者の本来の姿を表すモノとして描かれるように考えられた。一方で山中に入り、薪を拾うことを生業にする樵婦などは巾着袋を煙草入れに転用して腰に提げて携えていることが多い。腰に提げることで両手が空き、前屈みの姿勢で仕事をする際に懐中からこぼれず、枝などに引っかかりにくい形をした巾着袋はこのような外での作業に適した道具としての煙草入れである。

以上のことから、煙草入れの形態や意匠には職業や性別による様々な反映が見られた。屋内で働く者の煙草入れは装身具としての側面が強く、屋外で働く者の煙草入れは実用性を重視した道具としての煙草入れを使用するなどの違いが見られた。また、煙草入れが所有者の性格や感情などを映し出すものとして描かれていた可能性も検討することができた。

はじめに

第1章 1935年までのジャコモッティと作品

- 第1節 1921年まで
- 第2節 オブジェの時代

第2章 戦後の人物彫刻について

- 第1節 ジャコモッティの芸術
- 第2節 距離
- 第3節 細長いフォルム
- 第4節 頭部

おわりに

20世紀を代表するスイスの彫刻家アルベルト・ジャコモッティ (Alberto Giacometti, 1901-1966) の作品は、ジャン＝ポール・サルトルをはじめとする哲学者や詩人により探究されてきた。特に戦後の人物彫刻は高い評価を受け、今なお人気を博している。だが、ジャコモッティの彫像に出会うその瞬間、我々はその真理を理解しているからこそ惹かれるわけではない。作品について目を向けてしまい、どうしようもなくそれが気になるのだ。ジャコモッティの彫像が、それをよく知らぬ者さえも惹きつけるのは何故か。彼の彫像はどのようにして何を表現しているのかを解明し、考察する。

戦後の人物彫刻を作るまでに、ジャコモッティはいくつかの表現を試みている。後の彼はそれらの試みの時期を否定することとなるが、あのかげがえのない人物像が生まれるための土台となる作品の積み重ねを無視することは出来ない。まずはその作風が戦後の人物彫刻に向きを変える以前、1935年までの彼と作品の変遷を辿っていくことにする。

植物学者が花の構造をスケッチし自らの頭で理解しようとするように、ジャコモッティは見えるものを見るままに作り、それを理解しようとした。彼にとって芸術とは、それ自体目的となるものではなく、理解するための手段にすぎない。そしてその理解しようとしたものは彼の目の前の現実であった。1919年から1920年頃、置いてある梨をデッサンしようとする、どうしても小さく描いてしまうという問題が起きる。近づいて梨の大きさを確かめその記憶を紙上に表せば、実物大のもっともらしい梨を

服部 愛

HATTORI Mana

気になる存在 —アルベルト・ジャコモッティの彫像—

描くことが出来る。だがそれはもはや、彼がそこから見たとおりの梨のデッサンではない。見るというのは本当に見えているものではなく、既に蓄積された知識により構成されたものを見ているのかもしれない。このことに気づいた時、彼はすべてが見知らぬものに見えるようになったという。ここから見えるままへの探究が始まっていく。中でも彼は人間の存在を見えるままに表すことに執着する。

これはファン・Mとの出来事に起因する。ファン・Mとの旅路にて、ジャコメッティは彼が急激に死に向かっていく様子を目撃する。生きている人間が一瞬にして死んだ人間に変わる。死んだ人間はもはや人間ではなく、ただの物質と化す。人間という存在の不確かさへの不安が、彼に一生付きまとうこととなった。

こうして見たままの生きた人間を作る試みが始まるのだが、それは例えばロダンやマイヨールのような古典的なやり方では作ることの出来ないものであった。古典的なやり方において、彫刻は様々な視点からの情報をその身に押し込められるが、それはまさに実物大の梨と同じことで、真に見えるものの姿はそれがそれらしく作られるようにはなっていないのだとサルトルは指摘する。比べて、ジャコメッティの彫刻は一点からの、つまりジャコメッティが見る点からの距離しか持たないという。それゆえ彼の彫刻は近づいて見るための細部を持たないが、その代わり、その距離で見た瞬間の印象を持っている。しかし彼の再現したい印象をもった人間をその距離をもって彫刻にすると、それは微小のものになって最後には消えてしまう。これを大きくするためジャコ

メッティは彫像に細長いフォルムを与える。その姿は人間らしいとはとても言い難いものであるが、細長くなければ現実に似ないのだという。我々の目は見える範囲すべてのものをくつきりと見ることはできない。我々の目の構造を証拠に、彫像の細さはジャコメッティの両眼のヴィジョンの表れであると井原慶一郎氏は指摘する。サルトルとミシェル・レリスはその体はただ細いのではなく、空間を孕んでいることを主張する。削られた細い体の表現は、人間が持つ空間を表すのだという。またジャコメッティは頭部を特別視する。イヴ・ボヌフォワは頭部が人間を表すために必要な要素であることを述べる。加えて頭部には、まなざしがある。死者と生者の違いをまなざしに求めるジャコメッティは、彫刻にまなざしをもつ頭部を与えることにより、生きた人間を作ろうと試みた。

ジャコメッティは見えるものをよりよく理解するために、彼から見えるままに彫刻をした。突如奪われる可能性のある人間の尊厳がどこにあるのかを知るために、彼の前にいる人を見えるままに作ろうと試みた。そのようにして作られた彫像には、印象を伝える距離が、真のヴィジョンを示す細長さが、生きた人間であることを示す頭部のまなざしがあった。ジャコメッティの彫像は、我々に人間の存在を知覚する感覚、人と出会う感覚を提供する。我々がジャコメッティの彫像に興味をもつのは、そこに自分を見るからである。なぜなら我々もまた像と同じで、存在する生きた人間であるからだ。そこにある鏡を意識せずつい見ってしまうように、そこにいる彫像に目を向けてしまうのだ。

はじめに

第1章 コルナーロ礼拝堂の概要

第2章 先行研究と問題の所在

第1節 コルナーロ礼拝堂の先行研究

第2節 本論文における問題の所在・主張・論証の手続き

第3章 ベルニーニ作品における意図的な色大理石の配置

第1節 コルナーロ礼拝堂以外の作品

第2節 コルナーロ礼拝堂における色大理石

第4章 大理石の神聖さと神学的メタファー

第1節 石に込められた神性

第2節 光の浸透

第5章 聖女テレサとキリストの「一致」

第1節 図像学の観点から見る「ピエタ」との関係性

第2節 隠された人差し指から見る受動性と能動性

おわりに

サンタ・マリア・デッラ・ヴィットーリア教会、コルナーロ礼拝堂の《聖女テレサの法悦》(1647—52)は、17世紀のイタリア、バロック美術を代表する彫刻家・建築家・画家のジャン・ロレンツォ・ベルニーニ(1598—1680)の代表作の一つである。この礼拝堂は、建築、絵画、彫刻を結びつけ、全体が一つの美しい融合体をなすことを意味する「ベル・コンポスト」が最も素晴らしく体现されたと賞賛されている。

この作品の主題は、聖女テレサが実際に経験したという宗教的法悦や、それによってもたらされるキリストとの神秘的結婚を想起させ、神の愛がもたらされているという意見が先行研究の中心となっている。その中で研究者ファビオ・バリーは、コルナーロ礼拝堂の天国の様相およびイリュージョンを現世で理解するためには、建築を形作る物質・石材がもたらす神聖さが重要だと主張している。この主張を頼りに本研究では、大理石の素材や物質の特性を活かした使用がベルニーニの工夫の一つであると考え、この要素も聖女テレサの彫刻の主題と同様、神の愛を暗示していることを指摘する。

まず、ベルニーニの生涯において、色大理石の使用が意図的であるのかを確認するべく、コルナーロ礼拝堂以外の作品における色大理石の配置方法を筆者独自の問題意識によって観察した。それぞれ、作品上方から下方に向かって色彩は段階的に暗くなっていき、光、つまり神の光が浸透していく様を色付けしたものようだ。斑点はその光が凝固したものだということが観察から分かる。それはバリーが指摘するように、コルナーロ礼拝堂においても同様である。しかし、コルナーロ礼拝堂における色大理石は、他の作品と比較す

松永 祐季

MATSUNAGA Yuki

ジャン・ロレンツォ・ベルニーニのコルナーロ礼拝堂における神のメタファー
—色大理石と聖女テレサの指から—

ると実に多様である。そのため、そのような神の恩恵の凝固と同時に、神学的な愛の炎のメタファーともなっていると考えられる。

次に、神の恩恵と神学的な愛の炎という考察を補強するべく、バリーの色大理石に対する物質的、地質学的アプローチを参照し、論を展開する。ベルニーニと同時代のイエズス会士アタナシウス・キルヒャーは、石の中に見出されたイメージが物質世界（俗世）への光の浸透を示し、神の奇蹟であると結論づけている。また、17世紀に広く受け入れられていたアリストテレスの石の形成論では、神の象徴である太陽によって生じる地球の「呼気」が石を生み出すとしている。実際コルナーロ礼拝堂には、聖女テレサの彫刻の上に自然光を取り入れるための窓がある。光と同時に神がもたらした四大元素（火、水、土、空気）は、太陽と聖女テレサの愛の炎を中心として、神学の概念で神の恩恵とされる水などと紐付き、その関係性が礼拝堂の色大理石の配置方法と繋がっているという意見を提示したい。

転じて、この「神学的暗示」という点では、聖女テレサの右手の人差し指も注目に値すると考え、筆者独自の考察を進めた。通常、この部分は作品正面から鑑賞すると、聖女が着用しているドレーパリーに隠れてしまっ見えなところだ。しかし、ベルニーニによる聖女テレサの彫刻は、全体的に受動的なポーズを見せながらも、この右手の人差し指のみ故意に突き出しているのである。この部分は先行研究で詳しく述べられておらず、その解釈を試みたい。

近年の研究では、聖女テレサのポーズについて、ミケランジェロの《ピエタ》との形態的および図像学的一致が示されている。この

見解に筆者は、ルネサンスやバロックの「ピエタ」やキリストの死の図像における、突き出た指の表現との関係性を加える。「ピエタ」は完成された殉教である。コルナーロ礼拝堂では、イエス・キリストの苦しみにテレサを結びつけることで、彼女が天上のキリストと共同する2人目の救済者であることを視覚化していると考えられる。したがって、人差し指のみを突き出す様子は、人間の罪を浄化し光で照らすという、唯一の神の恩恵を指し示していると考えられる。この人差し指が鑑賞者に対してほとんど見えないのは、外面的には聖女テレサをよりきらびやかにさせている色大理石が神の光や炎を暗示しているように、神によって燃える内的な魂の上昇を暗示したものであるからだろう。

「ピエタ」における受難は、「受動性」が最も力強いものであるとされてきた。観者も「共に苦しみ」、「感じ入る」ことで、観者自身の受難に関わるようになる。ここでヴォールトに掲げられた「私が天国を創らなかつたら、あなたのためだけに天国を創ることでしょう」という銘文に注目しよう。この言葉は、神が聖女テレサに対して語ったものである。しかしながら、コルナーロ礼拝堂に創造された一つの世界に精神的に入り込み、ここに創られた天上を見出した観者に対するものでもある。これまで述べてきた色大理石における暗示は、観者がまず彫刻を鑑賞して神を見、テレサを通じてキリストと共に苦しみ、この礼拝堂全体をぐるりと主体的に見渡し、ヴォールトのフレスコ画において創（作）られかけている天国の様相を知り、キリストへの救済を願うことで見えてくるようになるだろう。



令和5年度 愛知県立芸術大学 卒業・修了作品集

令和6年2月 発行

発行 愛知県立芸術大学 美術学部・美術研究科
〒480-1194
愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114
TEL:0561-76-2873
<https://www.aichi-fam-u.ac.jp>

デザイン 野村祐介 / 土田侑美

編集 太田 晶

作品撮影 城戸 保

印刷・製本 株式会社グラフィック

卒制ビジュアル シルクスクリーンプロジェクト

今年度の卒業・修了制作展のキービジュアルは、大学のシルクスクリーン工房を利用し、愛知県立芸術大学の「森の色彩」を様々なパターンでデザインしています。有志の学生たちの協力のもと、フライヤー約4000枚のシルク印刷を達成することができました。協力して下さった学生のみなさまに感謝致します。

シルクスクリーン制作メンバー

野村祐介 / 土田侑美 / 大坪彩月
汪力 / 的野仁紀 / 奥村哲太 / 片岡佑衣 / 藤田彩花 / 松永祥太郎
山田望羽 / 長谷川碧 / 岡本陸菜 / 小島歎人 / 諸岡愛理 / 湯浅野乃香
協力：山本近子(印刷指導員) / 和 祐里(本学デザイン専攻教員)